

【講演テーマ】

『生活困難を抱える家庭への支援
～地域参加のはじめの一步を支えるアプローチ～』【講師】九州女子短期大学 教授 みやじま はるこ 宮嶋 晴子さん

【講師プロフィール】

1997年自身の子育てをきっかけに孤立や不安の子育てからの脱却を目指して子育てネットワーク実践を開始。2002年より九州大学大学院修士課程、博士後期課程へと進み、2005年より福岡教育大学、北九州市立大学の非常勤講師を経て、2014年より宮崎国際大学、2020年より現職。

生活困難や地域参加不全に陥っている家庭や地域に対し、アウトリーチ的な子育て実践を試みている。

【講演要旨】

1. 一般的な子育て中の親の地域参加

子育て中はどうしても家の中にこもりがちになり、「孤育て」に陥る人が多いです。私もそうでした。毎日、自分の子どもとだけ向き合っていると、子どもの悪いところばかりが目につくようになります。そんな時、地域のイベントに誘われて、思い切って参加してみると、わが子の優しいところに気が付いたり、他の人から褒めてもらったりして、自分の子育てに自信を持てるようになります。また、地域に顔見知りが増えて、道すがら挨拶するなど人間関係も広がっていきます。

自分だけで子育ての悩みを抱えて、毎日悶々としていると、孤立や不安でいっぱいになり、拳句の果てには虐待に至ってしまう人もいます。悩みの回路を外(=地域)に開くということはとても大切です。

2. ネットワークの拡がりや深まり

家から一步を踏み出し、人と語り合うことができるようになった親たちは、子育て活動からエリアネットワークの大切さに気付き、活動の場を広げていきます。自分の子どもたちが小学校に上がると小・中学生の子育て期は校区が非常に重要であると気づくからです。

そして、生活圏の自治会の活動にも参加するようになり、たくさんの人とつながる中で、「子ども」、「環境」、「女性」、「人権」、「健康」など様々なテーマに興味・関心が拡がり、地域をつくる主体となっていきます。地域活動は一人で動くのではなく、仲間を誘って、みんなで活動します。『一人の百歩より百人の一步』の考え方で活動を進めると地域の結びつきはより深まります。

3. 生活困難を抱える家庭について考える

「孤育て」に陥らないためにも、子育て世帯も地域活動に参加できる機会を作ることが非常に大切です。

しかしながら、経済的に困窮しているなど生活困難を抱えている家庭は、人や地域のつながりが狭く、必要な情報へのアクセス方法を知らないことが多いのが実情です。これだけ情報が溢れている時代ですが、当事者には全く伝わっていないのです。いつもスマホを持って、ネットを見ているのに、「子育て支援のホームページ？そんなのがあるんですか？」という感じです。

最近は「子どもが好きになれない」、「産むつもりはなかった」、「愛情が持てない」、「子育てに関心がない」という人も多くなります。このような人達は子育てに困難を抱えやすい傾向にあります。虐待防止のためにも、地域活動に参加するための「はじめの一步」が踏み出せるよう周りのアプローチ（最初の一押し）が何より大切です。

4. 「はじめの一步」を後押しするアプローチ

「はじめの一步」を踏み出すためには、自分と同じような状況や立場の人から誘うのが有効です。そして、温かく地域へ受け入れる人間関係が地域で構築されれば、地域は居心地の良い場となります。

情報発信にも工夫が必要です。若い世代は市政だよりなどの広報物をあまり読みません。小児科やスーパーのレジ、コンビニ、郵便局、銀行など身近な生活圏の中に手に取りやすいチラシなどを置くのも有効です。

また、「子育てサロン」や「居場所づくり」などを地域で企画する時は、参加しやすい距離、生活圏に場を設定しているか、支援者は、参加者に疎外感を感じさせないような『まなざし』や『言葉遣い』に配慮して関わりができているか、参加者のペースに合わせて気長に待つことができているか、地域活動を進める際の丁寧な後押しができているかなどに気を付けることがポイントです。

このように、地域活動の参加への「はじめの一步」を後押しするアプローチを地道に続けていくことがより良い地域づくりにつながっていくと思います。

